

ゆ

悠々として
遊びごろと
優しさにあふれる
人びとの
かがやき

ゆ

Vol. 3

ゆ
う
ゆ
う

ば
り
ま

鳥取県湯梨浜町

ゆ

ゆ
う
ゆ
う、
はり
ま

悠々として

遊びどころと

優しさにあふれる

人びとの

かがやき

ゆ
う
ゆ
う、
はり
ま

鳥取県湯梨浜町



ゆうゆう、ゆりはま

鳥取県のまんなか

日本海に面した湯梨浜町は

趣ある湖のほとりに全国でもめずらしい

湖中温泉(湯梨浜の「湯」が湧き、

里には二十世紀梨をはじめとする

おいしい果実(湯梨浜の「梨」が実り、

日本海に面して

美しい白浜(湯梨浜の「浜」がつづきます。

陽がさんさんと降りそそぐこの風土のなか、

活躍をつづける人びとを取材し、まとめたのが

この「ゆうゆう、ゆりはま」誌です。

第1巻(2018年刊)、第2巻(2019年刊)は
とくに女性たちの輝きにスポットを当てましたが、
この第3巻では、
「忘れてはいませんか」と男性陣も
たくさん登場していただきました。

ゆうゆうとは、

おおらかな「悠々」。

あそびごころの「遊々」。

やさしい「優々」。

さまざまな場面で、さまざまなひらめきのもと、
たくさんの「実り」を生む
熱い「ゆうゆう」たちの報告です。

4 ゆうゆう、ゆりはま

一章 すこやか

- 10 次の夢は、グラウンド・ゴルフの国際組織を作ること。
 12 すこやかな心身を養う体操の、はつらつとした指導者だ。
 14 ウォーキング・リゾートとして、東郷湖の魅力を世界に発信してゆく。
 16 誰かがやらないといけないなら、やれることは断らない。
 18 サーフインと出会って、人生が変わった。その歓びを伝えてゆく。

二章 ふくよか

- 22 ビートルズとメキシコ料理。決断力と謙虚さ。
 24 1品1品、ていねいに。美味しい時間を過ごしていただく。

三章 たおやか

- 26 人生第2章をこの地と決め、コミュニティづくりに奮闘する。
 28 フルーツ王国の素材を生かし、安心してわが子に食べさせられるケーキを。
 30 美味しいメニューの仕上げは、ここからの眺めです。
 34 早寝早起き・晴耕雨読。私らしい暮らしに還れました。
 36 朝露に包まれるバラ園は、光と色彩のドラマだ。
 38 木は何にでもなる。何を作ろうか考えるのが楽しくてたまらない。
 40 元鑑識課写真係は日本海の芸術写真を撮り続ける。
 42 趣味は、「問題解決」。東郷湖への愛が止まらない。
 49 人びとの、豊かな時間を

一章
すこやか

からだは正直だ
前向きに生きていると
元気がみなぎる

次の夢は、
グラウンド・ゴルフの
国際組織を作ること。

鳥取県グラウンド・
ゴルフ協会 理事長
河本清廣



泊港のそばにある小さな山が、甲亀山。海を見下ろすこの絶景のBGMは、木を打つような音と賑やかな歓声だ。ここは「潮風の丘」とまり」。グラウンド・ゴルフ発祥の地である。全国的に高齢化が加速した1980年代。旧泊村も例外ではなく、当時の村長が中心になって、文部省(現・文部科学省)の補助事業採択のため、国や県に奔走。1982年に、「生涯スポーツ活動推進事業指定市町村」の指定を受けた。

「そこから、私の所属していた教育委員会を中心に、高齢者も楽しめる新スポーツの開発に取り組みました」

河本清廣さんは、小中高と卓球やバレーボールに夢中の体育会系。プロジェクトチームの

一員として、大阪教育大学の教授や老人クラブ連合、体育指導員たちとゼロから、高齢者に相応しいスポーツの開発に奔走した。

そうして生まれたのが、「グラウンド・ゴルフ」。いつでもだれでも、グラウンドがあればできるこのゴルフは、NHKの取材から火がつき、「時代に合ったテーマ」として、全国的に普及していく。初心者でも身障者もハンデなしで楽しめ、ホールインワンで打数がマイナスされるなどゲーム性が高く、競技というよりまさに生涯スポーツだ。

一日の終わりに、焼酎のお湯割りを傾けながら想う次の夢は、グラウンド・ゴルフの国際組織を作ること。

「ナイス・トマリ！」を世界へ。

すこやかな心身を養う体操の、
はつらつとした指導者だ。

日本3B体操協会公認指導者
前田泰子



「この体操の楽しさ、楽しいのに高い効果が
実感できる、そういう魅力に惹かれました。
やさしいけれど深い、と言えばいいか」

その名は3B体操、前田泰子さんはベテラン
であり、指導者として熱心な活動を続けて
いる。体幹がしっかりし、姿勢の美しい人だ。
3B体操って何？ 誕生したのは昭和46
(1971)年。福岡在住のひとりの女性が心
身の健康に悩んだすえ、ふと生み出した体操
が全国に伝播していったもの。ボール、ベル、
ペルター(=ゴムの輪)という補助具の3つの
頭文字から3B。有酸素運動であり、バランス
機能や柔軟性を養い、筋力もつけ、おまけに
脳トレ効果もある、とまさにいいことづくめ。
子どもからお年寄りまで、そして障がいのある

人も親しめる体操だ。「気軽に遊びの感覚で続
けられて……」いまや、肩こりや腰痛などす
でに彼女の辞書には見当たらず、風邪なんか最後
にひいたのはいつのことだったか思い出せな
い。身をもって実証するから説得力がある。

「がんばり屋さんで、ときどき失敗をしたときは
深く反省はするけれどよくよ後悔をしない、
すてきな先生です」

指導を受けている人がそう評する明るさに、
ファンが多い。

「数年前に初孫がお生まれになった方から、
そのお孫さんが20歳になるまで元気でこの体
操を続けたので、先生、それまでやめないで
くださいねと言われ……」ちよつとジーンと
きた。がんばる。

ウォーキング・リゾートとして、
東郷湖の魅力を
世界に発信してゆく。

土地家屋調査士・
Café ippoオーナー
遠藤公章



近代的日本地図の基礎を築いた偉人と言え
ば、伊能忠敬。日本ウォーキング協会が、彼が
測量のため歩いた道を2年かけて巡るとい
う企画を立てた。この「伊能図巡り」に中心に
なつて協力したひとりが、遠藤公章さん。本
業は、土地家屋調査士だ。

「もともと歩くことが好きで、しかも測量の
大先輩の名を冠したイベントとなれば」と、
運営のサポートを買って出た。続いて、地元
のウォーキング大会も企画。やがて全国から
参加者を得て、世界のウォーキング協会や普
及に努める人々ともつながっていく。

「彼らから、東郷湖周辺は世界トップクラス
のウォーキング好適地だと言われたんです。
いつもの散歩コースが、急に出世したようで」

コンパクトなところに海・湖・川・山、そして温
泉のすべてがそろっていると称えられ、やがて
ここに、日本初のノルディックウォークの公認
コースが生まれた。

となれば、東郷湖をウォーキングのメッカに
する情報発信基地が必要と、『Café
ippo』を作る。日本初のウォーキング・カ
フェとして、全国から愛好者が集う拠点と
なった。

休日は「漁師見習い」として、21フィートの愛
船で海へ。陸からそして海から町を眺めるこ
とで、故郷の魅力を再認識する。

「他所から歩きに来てくれた人たちから、ほ
んとにいいところですねえ」と言われるのが
また、うれしいんです」

誰かがやらないと
いけないなら、
やれることは
断らない。

レストラン吉華
吉岡学



本業はレストラン経営者にして料理人だが、
吉岡学さんの肩書は多彩だ。誰かがやらない
といけない仕事なら、できることはやると決
めている。

「ドラゴンカヌー協会の会長、ノルディック
ウォークのインストラクター、トリアスロ
ンや商工会の仕事も…」

龍の姿を模したカヌーで、漕ぎ手と太鼓手が
息を合わせて速さを競う「東郷湖ドラゴンカ
ヌー大会」は、今年で19回を数える。

この日は大阪からの修学旅行生の体験教室。
店を臨時休業して、仲間とともにインストラ
クターを務めた。カヌーに乗って沖からの風
を感じる。水の匂いをかぐ。そんな非日常体験
が都会の子どもたちに喜ばれる。

「湖だけでなく、海、湖周の道、グラウンドや
体育館。湯梨浜町にはスポーツをする環境が
そろっているんです」

湯梨浜町の良いところを3つ、挙げてもらった。
まずは、「水辺での生活」。漁師でもないのに
海や湖を見て暮らせる。見ているだけでも心
が落ち着き、いろいろなスポーツもできる。

そして、「星空」。ネオンはないが、星は降るほ
ど。寝そべて空を眺めれば、どんな悩みも小
さく思える。あとは、「人」。湯梨浜人は、基本
的にウェルカム気質だ。身近な人も大切にす
るし、他所からの人にも優しい。

座右の銘は、「当起遠迎当如敬仏」。
意味を知りたければ、レストラン吉華の料理
人を訪ねよう。

サーフィンと出会って、人生が変わった。
その歓びを伝えてゆく。

クラウドサーフ
横山仁志



サーフィンを始めたのは、20歳のとき。それまではスノーボードに夢中だったが、同じボードでもこちらはまったく勝手が違った。先に始めていた友だちに負けまいと、毎晩8時9時まで波と格闘し、そして、ハマった。横山仁志さんの生まれは東伯郡琴浦町。型枠大工の仕事を辞めて、25歳でオーストラリアに渡る。ゴールドコーストに着いた翌朝、窓を開けると、映像や写真でしか見たことのないビッグウェーブが目の前に。

「パラダイスだ!!」と思いましたよ」
語学学校に通いながら和食レストランで働き、住まいも確保。1年間住むように暮らすことで、「苦手だった人とのコミュニケーションも、スムーズにできるようになりました」

プロになるには遅いデビューだったが、負けん気だけでやって来た。帰国後、縁あってこのサーフショップを引き継ぎ、去年もアマチュアの大会で優勝。指導員の資格を取得し、スクールも運営する。

「子どもたちには、庭で遊ぶように海でももつと遊んで欲しい」
初めて海に出た子が、ボードに乗れるようになって、次は横に滑っていく。上達していく様子を見るのも楽しいのだ。

「ここから、プロサーファーを出したい」と、指導者の夢も膨らむ。
「夏場はサップでちょっと沖に出て、ひょいと釣り竿をなげれば魚も獲れる。湯梨浜の海はいい海ですよ」